

とも い だい ごう
共に生きる 第9号

れいわ ねん がつ むいか みなみさわ はじめ
令和5年10月6日 南沢 創

あき な むし こえ き
秋に鳴く虫の声を聴いてみよう！

エンマコオロギ



ミツカドコオロギ



ハラオカメコオロギ



ツツレサセコオロギ



カマドコオロギ



クマコオロギ



あき な むし こえ き
秋に鳴く虫の声を聴いてみよう！

※アクセスには清原 東 小 学 校で使っている I D とパスワードでのログインが必要です。

※清原 東 小 学 校ホームページ、校 長 先生のお部屋からもアクセスできます。

ねんせい おんがく きょうかしよ な か し はじ むし
2年生の音楽の教科書に＜あれマツムシが鳴いている＞という歌詞で始まる『虫のこえ』という歌があります。

うた ばん か し いま さつきよく
この歌の2番の歌詞は、今は＜キリキリキーリキリ コオロギや＞ですが、作曲された時は、コオロギではなくて、別の虫の名前が入っていました。

きょう むし さつきよく とき ばん で とうじょう むし
そこで今日のクイズ。『虫のこえ』が作曲された時の2番の出だしに登場する虫は、次のどれだったでしょうか？

ア. クサヒバリ イ. マダラスズ ウ. キリギリス エ. カネタタキ

(答えは次のページを読んでね。)

答えは「ウ」の「キリギリス」でした。童謡『虫のこえ』は、1910年から音楽の教科書に載るようになりました。その当時の2番の歌詞の頭は、
＜キリキリキーリキリ キリギリス＞でした。

ところが1932年の教科書から＜キリキリキーリキリ コオロギや＞になりました。その理由は、明治時代まで『キリギリス』と呼ばれていた虫は、今の『カマドコオロギ』のことを指していたからだそうです。ちなみに今の『キリギリス』は、鳴き声が機を織る音に似ていたことから、『機織り女』と呼ばれていました。また、明治時代の中頃まで、『コオロギ』と呼ばれていた虫は、『エンマコオロギ』を指し、清少納言の書いた『枕草子』にも、美しい声で鳴く虫として登場します。鳴き方は＜コロコロ＞あるいは＜ヒヨヒヨ＞と言い表されていました。

明治時代の虫の名前や分類の変更は、西暦1639年頃から続いていた鎖国（国を閉ざし、オランダなど一部の国以外の国と交流しない政策）が終わり、周囲の国々から新しい文化や知識が入ってきた影響で行われたようです。

ところで南沢先生は、小学生の頃は目が見えていて、将来の夢は、昆虫博士になることでした。ですから、みなさんくらいの歳の頃には、たくさんの虫を飼育したり観察したりしていました。その頃から、私たちの身の周りには、10種類以上のコオロギが棲んでいて、それぞれにちがった鳴き方を知っていました。

大人になる途中で目が見えなくなり、音楽の先生になって、ふと、キリキリキリって鳴くコオロギは、何という種類のコオロギか、不思議に思い、調べてみたら、たくさんの面白いことがわかりました。

小学生時代に夢を追いかけた経験は、たとえ叶わなかったとしても、その後の人生を豊かにしてくれます。

秋休みが始まります。是非、虫の音に耳をかたむけ、将来の夢についてじっくりと考えてみてください。